

新町小学校の取組

～豊かな子どもの育成を目指して～

◎学校教育目標

夢に向かって挑戦し、
やさしく やる気のある 元気な子どもの育成

目指す子どもの姿

- ・自分の夢に向かっていろいろなことに挑戦していく子ども
- ・相手を思いやるやさしい子ども
- ・決まりを守り、やる気を出して取り組む子ども
- ・いつでも元気に活動できる子ども

取組

☆研究主題

社会的自立を目指す子どもの育成

～人と社会と主体的にかかわり合い、ともに学び合う集団作りを通して～

アンケートの調査項目と集計結果につきましては、表面に掲載させていただきましたので、項目や結果についてお目通しいただければと思います。

今回のアンケートから、本校の教育に対して評価していただいている点がある一方で、課題として取り組んでいかなければならない点も浮かんできました。そうした問題を一つ一つ取り上げ、全教職員がその解決に向けて取り組むと同時に、次年度へも引き継いで参ります。今回も前回と同様、「目指す子どもの姿」に関連する項目を中心に考察したことを、学校関係者評価とともに報告させていただきます。子どもたちがよりよい学校生活を過ごせますよう、今後ご理解ご支援のほど、よろしくお願いたします。

A・B・C・Dの4つの評価のうち、A・B評価をプラス評価、C・D評価をマイナス評価として記載します。



「自分の夢に向かっていろいろなことに挑戦していく子ども」

	プラス評価		マイナス評価	
	前期	後期	前期	後期
児童	94.9%	94.8%	5.7%	5.2%
保護者	90.3%	96.5%	9.7%	3.5%
教職員	91.6%	95.8%	8.3%	4.2%

保護者・教職員ともに前期より、プラス評価が伸びていますが、児童にはあまり変化がありません。この結果から、いろいろなことに挑戦している子どもの姿が、学校生活や家庭において多く見られるようになっていくことが伺えますが、児童の結果に変化があまりないことから、児童自身が挑戦していることに対して、自信が十分もてるようにしていく必要があると考えます。発達段階に応じて、挑戦することの大切さを説いたり、そこに向かうことのできる勇気を認め、励ましたりすることを保護者と教職員で共通理解できるようにしていきます。



「相手を思いやるやさしい子ども」

	プラス評価		マイナス評価	
	前期	後期	前期	後期
児童	96.9%	93.3%	3.1%	6.7%
保護者	97.5%	94.8%	2.6%	5.2%
教職員	100%	97.2%	0%	2.8%

児童・保護者・教職員の全てにおいて、プラス評価のポイントが低くなっています。これは、友達のことが分かってきたからこそ、自分の考えと友達の考えとの相違に戸惑う児童が増えているということを表しているのだと考えられます。そこで、道徳の学習や生き方探究教育の取組を通して、他者とのかかわり方について客観的に見つめることのできる時間を作っていきます。また、児童の協働活動の中で、共に「喜び」「楽しさ」を味わうことのできる活動を意図的に計画して取り組み、自分だけの満足でなく周りの友達からも認められるような心温まる行動を大切に、児童がそれらをたくさん経験できるように工夫していきます。



「決まりを守り、やる気を出して取り組む子ども」

	プラス評価		マイナス評価	
	前期	後期	前期	後期
児童	92.5%	93.5%	7.5%	6.5%
保護者	88.9%	86.2%	11.1%	13.8%
教職員	79.5%	85.2%	20.5%	14.8%

学校の決まりを大切に、やる気を出して取り組んでいる児童が増えていることが分かります。規範意識の定着において、児童と教職員が「廊下や階段では走らない。」や「学習に必要な物以外は学校へ持ってこない。」などの具体的な事例をもとに一緒に振り返ることで、次への行動に生かすことができていました。保護者の方も、家庭や地域でのお子たちの様子をしっかりとらえていただき、家庭や地域でのルールやマナーについて、子どもたちと話し合い、見守っていただければと思います。



「いつでも元気に活動できる子ども」

	プラス評価		マイナス評価	
	前期	後期	前期	後期
児童	94.5%	94.7%	5.5%	5.3%
保護者	92.9%	92.4%	7.1%	7.6%
教職員	85.4%	87.5%	14.6%	12.5%

いつでも元気に活動できるためには、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が大切です。長期休業明けに行っている「生活リズムしらべ」について、結果を「ほけんだより」でお知らせし、学校と家庭が連携して子どもの健康を第一に考えられるようにしていきます。また「あいさつ」においては、子どもたちは、親しい人には挨拶をしていますが、そうでない人には自分から挨拶をするという意識が低いというあたりから、児童と教職員との意識のズレが生じていると考えられます。学校に来られる方はすべてお客様であり、教職員自身が「おもてなし」の心でさわやかな挨拶を積極的に行い、大人から良い手本を示していきたいと思っています。



学校関係者評価（学校運営協議会理事会より）

「学校運営協議会の取組について知っている。」という項目においてプラス評価が高いのは大変うれしい反面、「学校運営協議会の取組は、学校教育に生かされている。」という項目では「あまりあてはまらない」とわずかではあるが評価されているのはさみしい。子どもたちは文化教室等で色々な芸術に触れ、経験の幅が広がる活動ができています。このことは「しんまちっ子」の豊かな情操を育む一端を担っているのではないだろうかと考える。これからも活動内容を吟味しさらに発展させていくと同時に、学校運営協議会についての広報誌「あすなろ」を通して、取組や活動内容を広めていきたい。